

接種完了で感謝状

国際長 戸田中央医科グループに
東京大学 総長



新型コロナウイルス感染症

で、大学を拠点としたワクチン接種(大学拠点接種)を県内で先駆けて実施した、川越市の東京国際大学(倉田信靖総長(84)、学生数6400人、教職員500人)は9月3日までに希望者ら約7千人の接種(2回分)を完了した。その中には近隣地域の保育園や幼稚園、小中学校の教職員ら

1800人も含まれている。

この接種を引き受けた戸田中央医科グループ(中村隆俊会長)に同大は感謝状を贈った。倉田総長は「大学として学生や地域への社会貢献という責任を果たせたのは戸田中央医科グループのスタッフたちのおかげ」と労をねぎらった。同医科グループは戸田市に本拠を置き戸田中央総合病院

「大学を挙げて感謝したい」と感謝状を贈った倉田信靖総長(前左から3人目)と中村毅副会長。中村隆俊会長もオンラインで参加した。戸田市の戸田中央医科グループ本部

など県内外に29病院を経営。

副会長の中村毅さん(62)は「(大学などの接種が始まった)6月21日から大学拠点接種をやりたいと倉田総長から私に要請があったのはその1週間前。できるのか。現場はできると判断し、ゴーサインを出した」と振り返る。父の隆俊会長と倉田総長は40年を超える親交があり、毅さんは同大学の理事を務めている。同グループは県内6病院から看護師と薬剤師を動員。6

月から9月までの計17日間、連日、看護師10人、薬剤師4人を派遣。延べ人数では看護師124人、薬剤師53人だった。ワクチンの打ち手を看護師が、薬剤師が原液の取り扱いを担当した。

同大学は、外国人留学生が多く、感染症の専門家として、

英会話のできる感染管理認定看護師の高橋峰子さんと、及川美香さんが連日交代で勤務した。現場に一番乗りして方が一の時のための救急車の出入り口や接種の動線を2人で決めたという。

「万全の構えで臨みました」と高橋さん。心配した通り外国人の女子留学生が倒れたが、高橋さんが英語で対応し、救急車で運ばれ大事には至らなかったという。総指揮を執った看護部長の今村理恵さんは「大変だったけれど役に立ててよかった。私たち看護師にも貴重な体験になった」と話した。

大学接種は9月30日現在、全国の364大学(うち県内は11大学)で実施している。

(岸鉄夫)